



メリカはフロリダ州オーランドで開催されました国際協議会に参加してまいりました。

RI会長ステファニーA・アーチックさんがおっしゃった、今年のテーマは「THE MAGIC OF ROTARY」ということでございました。私は会長のテーマ演説を生でお聞きいたしましたが、英語でしたので、すぐには理解ができませんでした。帰国後、日本語に翻訳された講演録をいただきまして、20回ぐらい、端から端まで読みました。私は英語の読解力は全然というのは初めから分かっておりましたが、日本語の読解力もあんまり大したことないので、困りながらも一生懸命拝見いたしました。

そして、今年度の我が2650地区のスローガンを考えて、「持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動」といたしました。幸いにして、アーチック会長のおっしゃっている内容と根本的に矛盾はしていないのかなと思っております。ロータリーが、そして2650地区が持続可能であり続けるために大事なことを7つの目標として掲げさせていただきました。

当地区に関しましては、2番から7番までの重点課題に関しては、私は何も心配しておりません。しかし、ほかの地区、あるいは今、国際ロータリー全体が抱えている最も大きな問題である、会員基盤の整備と会員増強が一番の克服すべき課題ではないかと思っています。

なぜこのような現状及び状況になってしまっているのかということに関しては、様々な要因が複雑に絡み合っておりますので、「これがこうだ。だから、乗り越えるためには、こうあらねばならない」という単純な解決策はないだろうと思っております。

最盛期、世界に130万人のロータリアンがいらっしゃって、そのときには日本に13万人のロータリアンがいらっしゃいました。10分の1が日本のロータリアンでいらしたのです。

その後、アメリカ、イギリス、オーストラリアといった、ロータリーの先進国とされてきた地域において、ロータリアンの会員数が極めてはっきりと減少いたしました。一方で、アフリカ、あるいはインドでは、非常にたくさんのロータリアンの入会を迎えております。一方で激しい減少、一方で激しい増加というのがあったのであります。今現在、国際ロータリーでは全世界で120万人の会員があり、日本のロータリアンは8万人台となっております。

我々の地区において、大和高田RC様に関しては、全然心配しておりません。90名を超える会員がいらっしゃいます。目標としては、一応お願ひしたいなと思うのは、3桁になっていただいたらどうかしらと私な

どは思うわけでありますが、それをずっと目標にしていただいたら、何の心配もないのではないかと思います。

奈良県下には、存続自体がぎりぎりというようなクラブもなくはございません。それは本当に残念なことです。経済がすべてを規定するとは思いませんけれども、それも一つの要因であることは間違いないかろうと思います。また、今の世界を見ますと、国連の安全保障理事会の常任理事国を担う大国が堂々と侵略戦争をするような状況です。それも、最初は、2週間、もしくは1ヶ月以内に勝つて終わると言っていたのに、1年、2年、3年と長引いております。そのことを何の恥じる様子もない有り様です。あるいは、世界で最も指導的な立場であらねばならない国が自国第一主義を掲げて、これも何ら恥ずかしいとも思っておられない。このような状況の中で、我々ロータリアンが、「超我の奉仕だ。I serveだ。we serveだ」と言っても、人々の胸になかなかしみ入りにくい社会状況にあるのではないかなと思っております。

しかし、そうであればあるほど、我々がこれまでやってきたこと、そしてこれからもやっていこうとする輝きというものは決して失せることはございません。いや、さらに輝き続けるものであると思っております。そんな時代がいつまでも続くわけはないと、私は信じております。

大和高田RCの皆様方は、奈良県中部以南におきまして、最も指導的な立場でいらっしゃると思いますので、どうぞ今までどおりの活動を続けていただき、そして会員増強に関しても、忘れることなく、こつこつ努力していただきまして、持続力のあるロータリー、そして持続可能な地域、持続可能な2650地区を目指して、引き続き頑張っていただきたいと思っております。

簡単ではございますけれども、これをもちまして、私のガバナーアドレスとさせていただきます。ありがとうございました。



出席報告	会員 総数	出席 義務 会員 会員 出席数	義務 会員 会員 欠席数	義務 会員 MU	出席 免除 会員 会員 出席数	免除 会員 会員 出席数	免除 会員 MU	出席率	
9月3日	91	58	52(0)	6	2	33	26	0	95.24%
8月27日	91	58	53(0)	5	0	33	26	0	94.05%
8月6日	91	58	49(0)	9	2	33	28	1	91.95%

()内の数字はWEB出席者数内訳

Rotary 大和高田ロータリークラブ

2024-25年度 第2650地区スローガン

持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動
Make Rotary Sustainable! Learn together Act together

会長	池木 啓仁
副会長	中井 謙之
幹事	丸野 正徳
会報・資料委員長	杉村 喜之

第2650地区 [1961.3.28創立]

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp

地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール
事務所：〒635-0095 大和高田市大中 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

第8回(通算3007回)2024年(令和6年)9月10日号

ゲスト

中本 勝様(第2650地区ガバナー)
吉田勝亮様(第2650地区第2グループガバナー補佐)
倍巖良明様(第2650地区副幹事長)

ビジター

多田 晉様(奈良県立医科大学)

誕生日祝

安田志郎会員(9月 4日)

結婚記念日祝

伊森隆敏会員(9月 9日) 中川和久会員(9月 9日)

ニコニコ箱

・本日はよろしくお願ひいたします。

第2650地区ガバナー 中本 勝様

第2650地区ガバナー補佐 吉田勝亮様

第2650地区副幹事長 倍巖良明様

・中本勝ガバナーをお迎えして。ようこそ大和高田RCへ。

池木啓仁会員 中井謙之会員 丸野正徳会員

村島靖一郎会員 中井隆男会員 甲村侑男会員

吉田 晓会員 寺田俊彦会員 船木克容会員

黒松 健会員 村井善治会員 脇本吉清会員

東辻英郎会員 世古千代子会員 辻 僚会員

下村敏博会員 池田定嗣会員 山下精久会員

佐藤佳雄会員 横根正起会員 村野淳二会員

河村憲一会員 喜多輝昌会員 松尾光至会員

高橋正典会員 吉川利幸会員 平岡雄一郎会員

牧浦 徹会員 西田陽昭会員 清水良彦会員

桑 雅宣会員 松村裕玄会員 吉川雅章会員

酒本良司会員 杉村喜之会員 中井俊之会員

當麻泰己会員 川中教正会員

・ガバナーをお迎えして。奈良県立医科大学5年生、多田暉さんを連れてきました。竹村惠史会員

・中本勝ガバナーをお迎えして。一期一会のガバナー

アドレスに期待しております。萩村喜芳会員

・池木会長はじめスタッフの皆様、頑張ってください。川中光教会員

・ガバナーをお迎えして。先週の堀川先生の卓話、楽しかったです。上田麻子会員

・米寿祝を頂いて。吉村忠雄会員

・ガバナーをお迎えして。誕生日祝を頂いて。安田志郎会員

9月3日の例会報告

会長の時間

本日は、第2650地区ガバナー中本勝様の公式訪問に際しまして、私たち大和高田RCのメンバー一同、心から歓迎を申し上げます。また、大変光栄に存じております。例会前の役員懇談会におきまして、種々の問題点にご教示、ご指導をいただき大変ありがとうございました。

私はクラブ概況報告書におきましても、中本ガバナー様のお言葉の一部を引用させていただきました。中本ガバナーいわく、「ロータリー活動は楽しくなければなりません。楽しくないと続きません。楽しくないと人にも勧められません」とのことですが、まさしくそのとおりであります。人は楽しいことに没頭していますと、いつの間にか時間を忘れてしまいます。奉仕すべてがそうだというわけではありませんが、少なからず自身を一生懸命その方向に向けるよう、頑張っていくことができるならば、時として幸せを感じ、覚醒する瞬間が訪れるかもしれません。

ロータリーライフを楽しむためにも、そのあたりも含めまして中本ガバナー様、本日のガバナーアドレス、よろしくお願ひいたします。

幹事報告

◎第3回定期理事会のご案内

9月10日(火)11時30分～ 4階会議室

◎次週より地区別情報集会が始まります。世話人の方々には大変お世話になっております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

4つのテスト【言行はこれに照らしてから】

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

ガバナーアドレス

第2650地区ガバナー 中本 勝 様

国際ロータリー第2650地区、20
24-25年度ガバナーを拝命いた
しました、中本勝でございます。所
属は奈良RCです。本日は、朝11
時過ぎから、クラブ役員の皆様と懇
談会を持たせていただきました。約
1時間という短い時間でございましたが、本当に楽しく、有意義に過ごせたと思っております。

大和高田RCの現状につきまして、つぶさにご説
明いただき、いろいろお話をさせていただきまし
て、大和高田RCは今や磐石の基礎の上に、奉仕活動
を運営していただいていると理解いたしておりまし
て、何の心配もしておりません。私のほうからお願いする
ようなことは何一つございませんので、あとは自己紹
介を兼ねまして、私が今の職業に就いたいきさつと、
ロータリーとの関わり等について、若干お話し申し上
げたいと思います。また、国際ロータリーの今年度の
方針なり、あるいは今年度の我が2650地区の運営
方針についてもお話をさせてもらいたいなと思って
おります。

私は1950年2月、昭和25年2月の生まれです。
いわゆる団塊の世代ということで、人数が一番たくさん
おった時代です。同級生が大体250万人ぐらい
いたようございまして、戦後日本の復興と繁栄を
担う希望の世代と言われておりました。

昨年度、令和5年度の我が国の新生児の出生者
数が大体71万人と聞いておりますので、それと比べ
ますと、何と3.5倍もいたということになります。

戦後日本の繁栄とともに、希望の世代と人に言わ
れ、我々自身もそのように思っておったわけですが、
昨今は我が国の年金財政を破綻に陥れる元凶の世
代と言われるようになり、何といいますか、時代が変
われば人々の評価も変わってしまうのかと、情けな
い思いをいたしております。

幼いときから勉強があんまり好きではなくて、運動
を一生懸命やっておりました。一つ、自慢させてい
ただきますのは、中学3年生のときのお話です。19
64年ですので、前の東京オリンピックの行われた年
でございますが、中3の私は奈良県中学校ハンドボ
ール選手権大会に出場いたしました。小さい学校で
したので、部員が7人しかおりません。ご承知の方も
いらっしゃるかと思いますが、ハンドボールというの
は7人でするスポーツなんです。7人がスタメンで出
たら、それっきり交代もありません。それで、決勝まで
進み、優勝いたしました。こういう休憩のないス
ポーツですから、野球を9人ずっとやるよりもまだ
しんどいと思います。体育の先生が監督でしたが、
優勝して、「先生、僕たちってすごいですね」と言っ
たら、「何言ってねん、8人いてたらおまえは出てな
い」と言われました。「ああ、そうか、7人しかいない
おかげで僕は出でもらったんか」と、残念だったり、



また納得したりという思い出でございます。

大学は一応法学部に行き、同時に硬式庭球部に
所属いたしました。朝から晩までテニスばかりやって
おりました。授業には一切出してもらはず、「雨の日
やったら出てもええ」ということでございました。ところ
が、実際ラケットを持ってテニスをするのは、午前20
分、午後20分の計40分で、ほかの時間は朝9時か
ら夕方5時までずっとボールボーイとコート整備をや
らされておりました。したがいまして、ボールボーイ
の技術とコート整備の技術は瞬く間にプロ級になっ
たわけですが、肝心のテニスのほうは一向にうま
くならないで、本当に困ったものがありました。

我々の一学年下、高校3年生に、神戸松陰女子高
校の沢松和子さんという選手がいました。彼女は高
3のときに、全日本女子シングルスの部で優勝いた
しました。大阪駒公園テニスコートのセンターコート
での決勝戦に勝って、彼女はチャンピオンになった
わけですが、私はその試合のボールボーイをして
おりました。青春のすべてをかけて取り組んだテ
ニスの唯一の栄光が、沢松和子さんのボールボー
イをしたということです。

2年生になって、もうちょっとテニスを練習させても
らえるかと思いましたら、驚くことに大学紛争というも
のが発生しまして、授業そのものがなくなりました。

1年生のときには雨の日しか出てなかつたんです
けれども、2年になると、もう授業そのものがなくなり、
また1年間ぶらぶらと勉強せずに遊んでおりました。
3年になってやっと授業再開ということになりました、
我々は教養課程というのは、無試験状態で通り過ぎ
まして、専門課程に入ったわけです。2年間全く勉
強していないわけではないので、ちょっとは勉強しないとい
けないなと思っておりました。

しかし、テニス部のある先輩から連絡がありまして、
ぜひとも俺の言うことを聞いてくれとまじめな顔でお
っしゃいます。何か思えば、ある都市銀行の就職
面接を受けてほしいということでございました。先輩
のたっての頼みということで仕方なく行きまして、人
事担当取締役からいろいろ質問されたりしておりま
したら、あらぬことか、突如私の肩をぽんとつかみま
して、「我が行の未来を担うの君だ」と言われました。
「ええっ」と思ってたんですけども、即合格というこ

とになりました。

何ば何でもこれはあまりにもおかしいやろうと、私
なりに思いました。2年間何の勉強もしていない、3
年になってちょっと勉強しようかと思った矢先に、そ
んなことで就職が決まつたら、私は勉強なんかする
気がなくなりますので、これはあかんだろうと。そ
んな話を今の学生さんに話しても、おおよそ信じてもら
えないようなことで、昔は青田刈りの激しい時代でござ
いました。

何せ、私に「俺の願いを聞いてくれ」と言った先輩
は4年生で、まだそこに就職もしていないんですよ。
そんな人に来年度、「おまえ、めぼしいやつを呼んで
こい」と言って、引っ張ってきて、それで面接、「は
い、合格」って、無茶苦茶な話です。これはあかん、
お断りするしかないなと思いました。

しかし、断り方が問題でございます。「御社よりもつ
といい銀行に行きたい」とか、そんなことは口が裂け
ても言えません。どうしようかと。下手な断り方をした
ら、その先輩の顔も潰すし、相手の銀行の顔も潰す。
硬式庭球部の面子も潰れて、後輩に迷惑をかける。
そんなふうに、いろいろと考えてしまうと、ややこしく
なってきて、どないしようと思うばかりでした。

ただ、唯一円満に断れる理由がございました。そ
れは、「申し訳ございません、司法試験を目指したい
と思います」というのが、当時の法学部の学生には
許されていたことあります。仕方ないからそう言
いました。自分としたら、その当時、あえて茨の道を
僕は進むんだなんてことを思って言ってみたわけです。

しかし、実際やってみると、本当に茨の道であり
ました。もともと好きでもないし、不得手な道を何で
選んだのかと大分後悔しました。銀行に勤めてたら、
今頃は良かったんだろうなと思ったわけですが、
もう普通の就職はできない身の上になっております
ので、半泣きでも何でもうこの道を進むしかないと
いうことで、頑張ってやりました。そしたら、神様も哀
れと思し召したのかしれませんけれども、幸運が何
重にも重なりまして、やっとこさ司法試験に合格いた
しました。

そして、大阪で弁護士登録して、立派な先生の下
で6年間修行しました。32歳のときに奈良に移り、独
立、開業いたしました。そして、翌年、33歳のときに、
縁があつて奈良RCに入会させていただきました。

その当時、奈良RCとしては最年少の会員でござ
いました、非常にかわいがってもらいました。一時、
相撲部屋で「かわいがり」という言葉が言われてお
りましたが、それに近いかわいがり方でした。「おい、
中本、出てこい」とか、「おまえ、分かつとるな」とか、
本当にいっぱい、あれやこれや言われまして、ロー
タリーのことをいろいろ教えていただきました。

「中本、おまえはロータリーは奉仕団体やと思って
いるやろう」と言われましたので、「はい、そう思って
ます。違うんですか」と言いましたら、「違う。ロー

タリーは奉仕する人の団体や」と。「ああ、そうか。うまい
こと言うな」と思うと同時に、何となしに腑に落ちま
した。奉仕する人の団体だから、まずI serve、自分が
自分の職業で世の中に奉仕するというのが、大前提
になるんだと、そのことを忘れてはいけませんとい
うことなのでした。

ところが、I serveだけではいけませんとまた言わは
りまして、「ええ、何や、さっきI serve言ってたん違う
ん」と思いましたけれども、それでは、できることが限
られてきますと。「あなたは、自分の職業で世の中に
奉仕すると言つても、できることは限られてるでしょう
と言われますと、なるほどと納得いたしました。そこで、
「I serveとともに、みんなで奉仕する、クラブで奉仕
する、we serveというのが大事なんだ。I serve、we
serveはロータリーの奉仕の両輪だ、しっかりと覚えて
おけ」と言われて、「ははあ」と聞いておったわけであ
ります。

その頃、そうやってかわいがって教えていたい
たんですけれども、それは何とはなしに、もともと素
直でもない自分の中にも、言われたことが自分なり
にすとんと腑に落ちたわけです。

奈良で独立して、弁護士として奈良のために何が
できるのか考えようと思っていた矢先でございました。
そしたら、まず自分の職業で奉仕する。そして、
奈良RCに入らせてもらって、そしてクラブで皆さんと
一緒に世の中に奉仕するんだということが、すとんと
私の胸に落ちて、これで頑張っていけばいいのでは
ないかと思いました。

その当時、「ロータリーに関しては、『ノー』とい
う返事はないんだ。『はい』か『イエス』か『喜んで』、この
3つしかないんだ」と言われて、えらい怖いなと思つ
ておったんですけども、「はい、分かりました」とか
言っておきました。

そのように教えられまして30数年がたち、今から遡
ること約3年前に、歴代会長が突如我が事務所にお
見えになりました。「今日は、あなたが『うん』と言つ
まで僕たちは帰りません」とおっしゃいました。「ええっ、
何のこっちゃ」と思ったんですが、続けて、「私たちも忙
しいし、あなたも忙しいでしようから、早く『うん』と
言いなさい」と、こうです。帰つてほし一心で、その
ときはもう、「分かりました。分かりました」と言ったが
ために、本日、このような場で、皆さんの前で、訳の
分からん話をいたさざるを得ない立場になつてしま
つたわけあります。

今でも、歴代会長めと思うときは、なくもないんで
あります。これも仕方がないと思って、1年間、頑張
つていこうかと思っている次第であります。

本年、令和6年の1月1日に能登半島で甚大な地
震が発生いたしました。そして、1月2日には、羽田
空港で航空機の事故がございました。幸いにして、
乗客が全員助かったことは不幸中の幸いでした。

この調子では今年の日本は一体どないなるんやろ
うと思いながら、1月5日、羽田空港を立ちまして、ア